

国際広報メディア専攻

平成25年度
前期

日本語論述

13:30～15:30

解答上の注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
- 2 問題紙は、この紙を含めて2枚である。
- 3 解答用紙(25字×40行=1000字)は、2枚ある。
- 4 解答用紙は、2枚とも必ず提出すること。
- 5 受験番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 6 選択した問題番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 7 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
- 8 下書き用紙は別途配布されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
- 9 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題1から問題3のうちから一題を選択し、1600字から2000字の日本語（横書き）で解答しなさい。（第1セット）

【問題1】

「ことばの乱れ」ということがたびたび話題になる。この問題について具体的な言語現象の例をあげ、論点を明確にしたうえで論じなさい。

【問題2】

以下の文章を手がかりに、活字メディア（書籍、雑誌）、放送メディア（ラジオ、テレビ）さらにインターネットというそれぞれの媒体について、相互に比較しながら、それぞれのメディアが知識の伝播や人々の関係性に与える影響について論述しなさい。

テレビから送られてくる情報は限られており、少なからぬ時間、多くの番組を家族が一緒に視聴するのに対し、インターネットの情報源は無限に近い。その情報にパソコンや携帯電話を通して様々な場所でアクセスするから、単独で接触する機会が多い。結果的に、受容するコンテンツは一人一人バラバラである。インターネットは、人々の話題を拡大する方向に作用する。また、メールやSNSともなると、家族の間でも、そのやりとりの相手、内容はお互い知ることはなく、もとより会話が少なく紐帯感が低い家庭においては、家族の結びつきがさらにバラバラになる可能性もある。インターネットには、家族や同世代に仲間の絆を強める働きがある反面、家族や世代内のつながりのなかに、モザイク化した多くの孤島を作り出してしまいう危険性をはらむ。

橋元良明『メディアと日本人—変わりゆく日常—』46頁、岩波書店、2011年

【問題3】

日本ではここ数年、これからの時代を担う「グローバル人材」の育成が社会的重要な課題と位置づけられ、経済産業省や文部科学省が政策的な対応を始めている。一方、企業の中には、留学生を含む国外の人材を積極的に雇用することで、いわば人材のグローバル化を優先的に推し進めている例が見られる。グローバル人材の育成や確保をめぐるこのような傾向について、その背景を論じるとともに、そもそも「グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材」（文部科学省）とはどのような能力を備えた人と考えられるのか、そうした能力はどのようにすれば獲得できるのか、グローバル人材を組織的に育成確保するにはどのような具体的方策が考えられるか、などについて、あなたの考えを述べなさい。